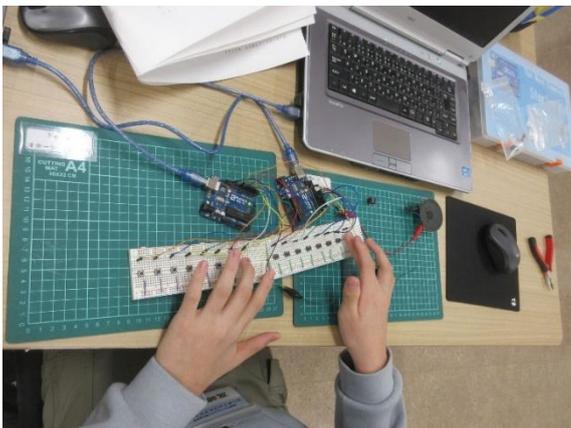
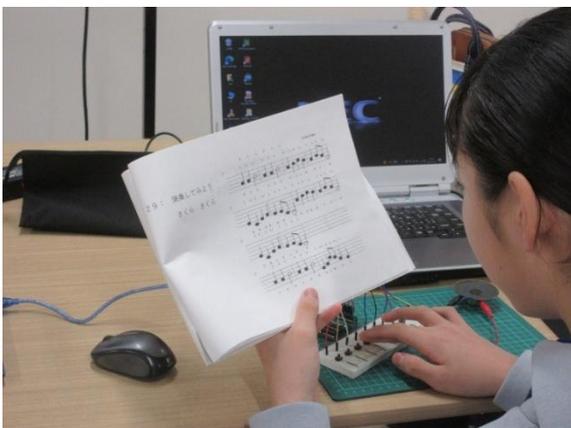
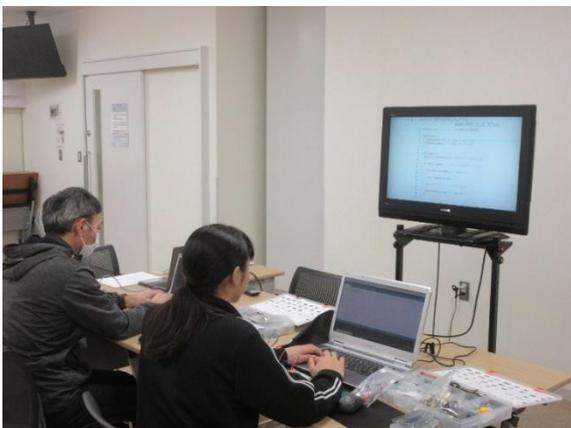


栃の木からの手紙

2026年 如月 2月号



2日： 満月 :旧 12月15日

4日： 立春

11日： 建国記念の日

17日： 新月 :旧 1月1日

19日： 雨水

若い頃から始めては挫け取り組んでは頓挫する思いがある。今迄ずっと、今でもそう。それは、電子技術の世界。一昨年暮れ、「やりたい」と声を上げ3年間出来ずにいた事が漸く実現した。思いがあっても他人任せでは、絶対に出来ない。自分が動く事。

年齢と共にもう自分は出来ない事を理解している。そうしたら自分で出来る方法に切り替えて行くか、若い人たちに伝えて関心を持ってもらう方法が思い浮かぶ。町の教育委員会のサポートで2年目となる昨年暮れには、冬休みに入ったばかりの小学生の参加者に、アルドゥイーノというマイコンボードを使ったプログラミング体験活動を行う事ができました。

今月14・15日には中学生向けにプログラミングの体験活動を行います。

北海道の農業は、冬をどう過ごすかが問題。こういった活動を行っている事は、子供たちの未来への種蒔になるし、自分自身のモチベーションにもなる。そして子供たちが将来の生活の中で活用してくれたら明るい未来になるかもしれない。

MOA美幌センターの建物。先日の新年祭の時、入口に「自然食品の販売」の案内の書が掲げられていた。この場所を活かす一助になるかも知れない。食品表示等が蔑ろにされ、食べ物の形はあっても食べる事が出来ない時代が遣って来るかも知れない。丁度今年からビートを直播に替える為育苗用のハウスが空いている。ここを利用して販売用の野菜苗を育苗して美幌センターで販売するのはどうだろうか？一人一人が食べ物を育てる事で食や農業に対する思いが変わって来るのではないだろうか？ また、この地に人が集まる機会にもなる。こんな事で、自然農法美幌会は、2026年度から会費をゼロにします。販売を実現しないと赤字になります。